

国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（令和5年度第9回）議事概要

日時：令和5年12月22日（金）16:00～17:30

場所：国立がん研究センター 管理棟 第一会議室 ※Webex 使用

出席者：中釜斉理事長、間野博行理事、北川雄光理事、平沼直人理事、
山内英子理事、本田麻由美理事、小野高史監事、近藤浩明監事、
島田中央病院長、大津東病院長

I. 前回（令和5年度第8回）議事録の確認

- ・前回議事録について了承。
- ・前回議事録署名人を北川理事と小野監事に依頼。

II. 報告事項

1. 中央病院ロボット手術・開発センターの設置について

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・ロボットセンター設置については組織横断的に手術を管理する上で重要であると考えている。手術の動作ログが、米国企業であるインテュイティブ社に保有されるということは今後の日本としての産業育成の観点から見ると、コントロールしがたい部分もある。今回のダヴィンチ SP においては他社と比較しても性能が秀でているので、導入は妥当な判断であると考えているが、将来的には手術データをどう日本として管理していくかといった視点も持ちつつ、進めていただきたい。
- ダヴィンチ SP の道具としての性能は言うまでもなく秀でているが、実際にどのように術式を開発し、役立てていくのかについては各診療科の努力も必要であり、今回のセンター設立を通して全体的な底上げを図りたい。
- ・ロボット手術の分野では、世界的にインテュイティブ社の一人勝ち状態であり、NCC として、是非日本の技術を駆使したより良い機器開発のためにも尽力していただきたいと考えている。
- 東病院では画像データを集積した手術ナビゲーションシステムの開発に注力している。ロボット手術に関してはご指摘の通り、インテュイティブ社と他社の差が激しいのが現状である。国産の Hinotori について、臨床研究の分野で導入し、データを蓄積することを目的として、導入を検討中である。
- ・国立研究開発法人としては、民間では取れない初期開発コスト、リスクを負うことも使命であり、世の中に普及して行くことが投資回収の一つとも考えられる。また、研究開発、人材開発の進展という社会貢献の面でも有意であり、導入に向け投資委員会等で経営面から投資回収の議論が重ねられていることも首肯される。案件ごとにバランスよく両方の物差しを充てることが重要であると考えている。なお、「日本一」といった文言は対外的に使うべきではなく、内部においても件数目標が現場の医師のプレッシャーになり、医療安全が脅かされるような事態になるのは避けなければならない。

2. 競争的研究費の直接経費から研究代表者（PI）の人件費の支出制度（PI 人件費制度）の導入について

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・本制度は研究者がインセンティブを得るためには重要であると考えているが、既に雇用されている研究者自身の給与に上乗せすることはできないのか。

- 研究者の給与に上乗せできる制度を整えている大学等は他にも複数あるが、NCC としては、研究費の有無によって給与に差が出るような運用はしない方向でスタートさせたいと考えている。しかし、今後方針を見直す可能性もある。
- ・競争的研究資金の他に、企業からの研究資金に関しても適用されるのか。
- 本制度を導入している研究費としては、AMED、JST、文部科学科研費、民間の研究費の一部が挙げられる。これらについては適用が可能であると考ええる。
- 組織の調和を乱さない、慎重なスタートであるが、NCC が PI 人件費導入に踏み切るとは、研究に身を投じて尽力している日本の研究者にとって非常に重要なことである。今後ぜひとも、さらに枠を拡大して柔軟な運用をしていただきたい。

3. コンプライアンス等の強化に関する改革方針について等（現状報告）

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・改革方針案については監事としても意見を提出しているのでご検討いただきたい。対外的に公表することになるため、NCC の考えを外部の方に理解、共感してもらうことを目指していただきたい。また内部の職員に当事者意識、参加意識を持ってもらうことは重要であり、そのための入り口としてアンケートは有意義であった。改革方針の完成後は、現場レベルでは仕事のやり方、管理者・部門長レベルでは意識改革に取り組むためのガイドラインが明確になりガバナンスの効いた組織となって欲しい。ガバナンスが効かないとコンプライアンスは実現しない。現場と管理者それぞれが何をすべきかを明確化させるという点をさらに議論していただきたい。
- しっかりと受け止め、対応したい。アンケートによって職員それぞれに考える機会を作ったということは重要である。これまで臨時四回、定例一回、計五回の執行役員会で執行役員全員で議論してまとめたという意義は大きい。これでガバナンスの機能正常化へ向けたスタートラインに立ったと考えている。今後中身を整理し、スタートを切りたいので、引き続きご指導を賜りたい。

4. 政府の会議の状況

資料に沿って報告された。

5. 広報実績等

資料に沿って報告された。

6. 投資委員会報告

資料に沿って報告された。

7. 11 月分医業件数

資料に沿って報告された。